

アナスタシアとは誰か？



アナスタシア



ウラジミール・メグレ

アナスタシアとはシベリアのタイガ（針葉樹林地帯）で生まれ育った女性の名前です。幼児のころに両親を亡くし、森の中で独り育ちました。時折彼女の様子を見に来ては、決して生育を阻害することなく必要最低限度の教育をしたのは祖父と曾祖父の二人でした。彼女を守っていたのは青い光と森の動物たちでした。熊やオオカミが赤ちゃんの乳母役をし、リスなどの小さな動物がナッツやきのこを捧げました。自然界で人工の物品を何も持たず、家も持たず、火を使わず、今で言うローフードで大人になったアナスタシアは叡智の源と直接つながっている為に、人間の書いた嘘の教義の影響を受けずに純粹無垢な心を持って愛を実践しながら、貧しいタイガの村人と交流し、ダーチャと呼ばれる機械を使わない農業をする人々に農業を教え、病に苦しむ人を癒していました。そして 25 歳の時に運命の人、ウラジミール・ニコライビッチ・メグレと出会ったのです。

メグレの著作、「The Ringing Cedars of Russia (邦題:響きわたるシベリア杉シリーズ) その1 アナスタシア」が初めて世界中の人々の前に登場したのは 1996 年でした。初版が発刊された後、口コミであつと言う間に噂が広まり、増刷に増刷を重ね、一年後には何百万の人々の知るところとなりました。いわゆる精神世界、宗教界、哲学界、科学界の人々が頭を抱えたり、唸ったりと大きな反響を呼びました。内容のあまりなすごさにどうしてよいか分からないというのが一番妥当な反応ではないかと思われます。これらの専門家たちはこぞってメグレ氏に自らの見解や理論、意見や教書を送り、それを読んだメグレ氏は初めて今までに知らなかった世界に足を踏み入れます。それまでは実業家として生きて来たとし、あまり本を読まなかったので、いわば「白紙」状態でひたすらアナスタシアの教えを忠実に書き綴ったものが第一作です。この一作だけでもその影響を受けた何百万人の

人々が詩を書き、絵を書き、歌を作り、木を植え、自然と共に自給自足で暮らす生活を実践するべく都会を捨てて田舎で農業を始めました。それほどの影響を何故一冊の本が与えられたのでしょうか？ 今までにも多くの書物が発刊されていたのに、これほどまでの影響力を持った本がなかったのはどうしてでしょうか？ その答はメグレ氏自身がこのように語っています。

「多くの教書や理論を贈られて、一年間でそれまでの一生分読んだよりも多くを読んでみて分かったことは、いわゆる精神的な教えを書いた人々はまるで役立たずの嘘 (pack of lies) を書いているということだ」と。勿論為になる本もあったが、それらも何かが足りないそうです。だから実践されなかったのです。理論が理論のまま図書館に並んでいただけなのです。これに対しアナスタシアの教えはすぐに実践できるだけの具体性を持っているので、多くの人が人生方向転換を始めたのです。

さて、その後、教えに沿って少しずつ学びとり、啓示を受けたり、叡智を持った光に反映された様々なビジョンを見たりさせられながら誘導されて、2, 3, 4 作目を著して行きます。読者はメグレと共に学んで行けるという段取りなのではないかと思えます。

ロシア語の原文を英語に翻訳したのはメグレが信頼していると語ったレオナード・シャラシュキン氏とカナダのジョン・ウッドワース氏で、第一作目は 2005 年の 1 月に発行されました。その後は非常な勢いで翻訳が進み、2007 年の 12 月には 9 冊目まで全部が出ました。